

プロフィール

米国の大学にて国際関係学の学士号を修得後、フランスの大学院にて公共政策分野の修士号を修得しました。その後、外務省専門調査員としての在米国日本大使館政務班勤務などを経て平和構築人材育成事業に参加しました。国内研修後は国連コンゴ民主共和国安定化ミッション（MONUSCO）の情報分析官としてコンゴ（民）東部に勤務し、現在は国連本部の平和維持活動局危機管理センターに勤務しています。

1. 平和構築人材育成事業に応募した理由を教えてください。

私は将来的に国連において紛争解決のための平和維持活動や外交的活動に携わること为目标として平和構築人材育成事業に応募しました。この目標に至るまでには、国連の政治的取組が無効に思えたことや、途上国への支援が延々と続くことに疑問を抱くこともありましたが、安全保障理事会をとりまく政治や強国の国益がぶつかり合う現実の中で、我々9. 11後の世代がいかにしてこの地球を少しでも改善して次世代に受け渡すことができるのだろうかと考えた際、国連という万国共通のフォーラムにおいて、紛争解決に向けた政治的取組に関わっていきたいと考えるようになった、という経緯があります。

2. 国内研修の感想は？

国内研修ではとても貴重な経験をさせていただきました。まずなんといってもアジア諸国及び日本からの研修生の多様性と各人の人となりが、国内研修全体をより豊かなものにしたのは確かです。また、自分とは異なる分野に関心をもつ研修生と出会ったことで、彼らの情熱から大きな活力を得たように思います。研修中の印象としては、これまで実際に関与したことのなかった業務に取り組んでみる機会や新たなスキルを習得する機会を与えられたこと、それから多分野で活躍する魅力的な講師陣と出会えたことが最も有益な点だったと思います。

3. 就職先での活動について教えてください。

MONUSCOは国連の平和維持活動の一つで、ハイチと同じように、国連の中では依然として新しいコンセプトである「安定化」を目的として展開されています。アフリカで2番目に国土の広いコンゴ（民）において、私はルワンダ国境まで徒歩2分のゴマという北キブ州の州都に駐在し、国連によるコンゴ（民）東部安定化支援事業に携わりました。具体的には、コンゴ（民）政府による東部安定化政策を支援する国際社会の取組を運営するための現地情勢調査を担当し、特にプロジェクトを展開している地域の政治・安全・人道情勢を監視した上で、事業の進捗状況やインパクトについて報告書を作成しました。私の事務所が調整を担当したコンゴ（民）における安定化政策には、1）和平合意の監視、2）安全保障への支援、3）国の施設再建への支援、4）難民・国内避難民への支援、5）性的暴力との闘いなどの分野が主としてあり、私は各分野のプロジェクトの優先度を決定するための議論および調査にも関わりました。

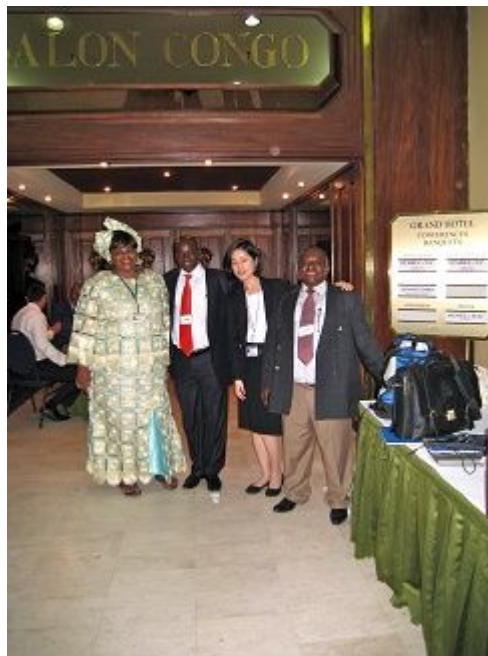
業務の一環として数ヶ月に一回は首都キンシャサを訪問し、MONUSCO幹部との打ち合わせ及びコンゴ（民）政府幹部との協議に参加する一方で、プロジェクト実施地域の視察のために南北キブ州各地を訪問しました。この仕事では、MONUSCOの様々な部署や、UNPOL、平和維持軍、国連機関、NGO、コンゴ（民）政府など、多様なアクターと直接やり取りがあったことがとても興味深い経験となりました。

現在は、国連本部平和維持活動局の危機管理センターにおいて、中央・西アフリカ地域において展開されている国連のフィールド・ミッションの受入国および地域情勢の監視を担当しています。同センターでは、平和維持活動局と政務局が運営しているフィールド・ミッションの中でも秩序の乱れる危険性の高い国や地域を中心に監視し、万が一の緊急事態には本部として即時に対応できる体制がとられています。この事務所では国連のフィールド・ミッションが直面している難題を、現地での状況および本部の反応などを交えてリアルタイムで追うことができ、非常に勉強になっています。

4. 就職先での感想は？一番印象に残っていることは

MONUSCOでは、政治、人道、安全などの分野の情報収集、蓄積、分析することが任務でしたが、着任した

たての頃は紛争地において情報を収集する難しさを実感しました。たとえば、数多く存在する武装勢力や反政府勢力は、分裂したり新たに発足されたりと動きが多いのですが、ジャングルに隠れている彼らの正体および動向を確認することは容易でないことも多々ありました。私のポストは前任者がいなかったため引継ぎ書があったわけでもなく、最初はどうしたものかと困りました。最初は政務部やミッションの情報機関に問い合わせた自分なりのデータベースを作成し、データの更新に励んでいましたが、MONUSCOのような巨大なミッションの中で、各事務所が一から情報収集を行うのは効率性が悪すぎると思い、ミッション内の異なる分野を担当するいくつかの事務所の同僚に直接会いに行き、より開放的な情報共有の可能性を追求しました。そうこうしているうちに、平和維持軍の情報管理担当官が、彼らの事務所も文民スタッフと情報を共有したいが特にカウンターパートがいるわけでもなく困っているということが分かり、その後私の属する事務所と彼らとの連携が新たに開始されることになりました。結果的には、改善策を模索するなかで様々な部署やアクターとやり取りを行ない、彼らの仕事について理解を深められただけでなく、私の事務所との仕事関係も以前より円滑なものになったのでよかったと思います。



【コンゴ民主共和国の首都キンシャサで行われた同国政府との会議の際に撮られたもの】

現在の本部の仕事ではコンゴ（民）のMONUSCOも担当ミッションのひとつとして受け持っていますが、情報収集の一環として毎日フィールドと連絡を取るため、現地にいたときより

も国連外交の全体像がみえてとても興味深いです。また、私は直近の勤務がMONUSCOであることもあり、コンゴ（民）の地理、歴史、政治的知識だけでなく、同国における国連の活動に関する理解も今の仕事に直接的に役立っています。たとえば、平和維持軍の動きについて確認したい際、その組織構造を理解していることでどの事務所に連絡をとればよいか即時に見つけられる、というようなことです。さらに、フィールドの情報機関に連絡する際も現地のミッション内でどのように情報共有が行なわれているか理解していると、アプローチの仕方に違いが出るように思います。また、政務局が運営しているミッションとの違いなども観察することができ、勉強になっています。



【北キヴ州マシシへのフィールドミッションの際に、ヘリコプターを背景に撮られたもの】

5. 今後のキャリア・プランを教えてください。

今後は、平和維持活動局と政務局に関連する分野で、これまでの経験を活かすとともに国連による紛争解決の取組に一層深く関われる仕事に就きたいと考えています。

6. 平和構築人材育成事業への参加を考えている方にメッセージをお願いします。

将来、国連や国際機関という場に限らず平和構築の分野で活動したいと考えられている方には、平和構築人材育成事業の国内研修が提供する幅広い知識とスキル、様々な出会いの場、そして何よりも海外実務研修としてフィールドに出て実際に勤務するという経験は、非常に役に立つと思います。まだ自分に何ができるのか、何に向いているのか分からないという方も、平和構築への強い意志があるのであれば、最初の一步を踏み出してみればいろいろな機会が生まれてくると思います。また、すでに専門をお持ちの方も、この研修をとおして視野を広げることができると思います。